Rosa Plumula

ローザ・プルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター

ニュースレター No.16

目　次

巻頭言 ……………………………… 1

センターから …………………… 1

専門部会から …………………… 2

キャンパス情報 ………………… 5

教養教育一口アドバイス

　― 教養科目でこれやっちゃダメよ ― … 7

Ｖｏｉｃｅ

　― 私の出会った

　　ステキな授業，ヘンな授業 ― … 9

教養教育古今東西 ……………… 10

掲示板コーナー ………………… 11

（平成12年４月発行）

新入生の皆さん入学おめでとう。今年は奇しくも西暦2000年，20世紀最後の年，新千年紀の始まりの年に当ります。皆さんが卒業する時には，すでに21世紀が始動しており，まさしく世紀の転換期に大学生活を送ることになります。これまでの歴史を振り返ってみても，世紀転換期には，社会構造，技術，思想など多方面にわたって大きな変化が生じております。しかし，いかなる変化の大波が押し寄せようとも，大学の基本，教育の原点には失ってはならないものがあるはずです。19世紀末から20世紀前半にかけて活躍したドイツの建築家グルリット（Gurlitt，C）は，教育について次のような含蓄ある言葉を残しており，20世紀末の現在でも傾聴すべきものがあります。

「考える術（すべ）を教えるべきで，考えたことを教えるべきではない。」

これは専ら教師が心すべきことがらでありますが，学生の側に裏返してみることもできます。大学では考える方法を学ぶのであって，結果のみを学ぶのではない，と。学生は学問の単なる享受者ではなく，理解したことを踏まえて新しい考えを生み出す力を持った人材となることを期待されているのです。しかし，実際には「考える術」それ自体を教える科目は存在しません。教養科目であれ，専門科目であれ，いろいろな授業科目を付された授業の全てから，これを体得することが求められているのです。

（佐藤）

センターから　－ ようこそ新入生諸君！「教養教育です」－

新入生のみなさん御入学おめでとうございます。

いよいよ４年間の大学生活がスタートすることになり，多くの人にとっては新しい生活へ向けての期待と不安が交錯しているのが現実ではないでしょうか。

あわただしくガイダンスを受け，自分なりの時間割りを決めて，一息入れる間もなく，授業に突入し，あげくは学生としての心構え，茨城大学で学んだ成果を社会の中で明確なかたちで示すことが求められるなどといった，精神訓話も含めた，情報の嵐が無秩序ともみえるように襲ってきます。かつて，入学後の情報に圧倒されたか，情報の希薄さにショックを受けた学生の無気力状態を「五月病」などと呼んだ時代があります。今では入学直後の「無気力学生」はあまり問題にされていませんが，多くの人が大なり小なりのストレスを受けていることも事実です。たるまず，いきまず，まずは淡々としたスタートを切ることです。そして，あらゆるものには，多様な側面があり，「くだらない，つまらない」と思った授業も，見方によっては味わい深いものがあることを発見して下さい。授業の中身は半分以上あなた自身が決めるものですから。

落ち着いてきたら，４年間を充実して活かす工夫をしましょう。キャンパスライフは，むろん，勉学のみではなく，部活や様々な人との交友など，幅広い活動によって，成り立つものです。このような多様な活動の機会に恵まれるのは，学生時代の最もすばらしい特権だと思います。この機会を存分に活かし，あなたの人生において最も恵み多き時代にしなければなりません。

勉学についていえば，皆さんは，それぞれの専門領域に志を持って入学をされたことでしょう。その専門の領域を早く極めたいという気持ちも理解できます。しかし，大学では専門以外の多くのことも同時に学ばなければなりません。専門以外の科目は「教養科目」と呼ばれていますが，実は皆さんが，専門家として将来大成するかどうかは，これらの科目の意義を理解し，しっかり身につけるかどうかにかかっているといっても過言ではないでしょう。教養科目を学ぶことで，専門科目の位置付けを理解し，社会の中での役割について客観視できるようになるでしょう。一見専門の分野とかかわりのないように思える分野が，意外な結びつきで，将来直接役に立つ情報になることも多々あります。学生時代から，狭い専門分野に特化し，ある範囲のことしか関心を示さないようであると，ある限定した分野でとても役に立つ歯車になる可能性はあっても，創造的な仕事をする力は育まれないかもしれません。

有意義で成果の大きい学園生活のために，最も大切なものは健康です。健康を損なうと，あらゆるものが破綻することになります。健康を保持するのに，最も重要な要因は，「食生活に気を配ること」と「過度にストレスをためない工夫をすること」です。キャンパスライフがいつも外に開放されていることも大切です。自分だけの閉鎖回路にいつまでもとどまると，気がめいり，やがて身体の様々な不調となって現れます。総合大学の利点を活かし，教職員を含めた様々な人と交友する機会を積極的に創って下さい。　（服部）

専門部会から　― 諸君の受講を待っています ―

外国語科目専門部会

社会の要請に応え，時代の趨勢に即応するために本学の外国語教育も徐々に，しかし，確実に変わっていこうとしています。教養教育の改革の検討がなされるなかで，外国語科目に関してもセメスター制が導入され，更には，トーフル及びトーイックのスコアによる英語の単位の認定が可能になります。その他，英語の能力別クラスが工学部１～３年次生向けクラスに新設され，また，工農２年次生向けの水戸地区での独語Ⅲの夏期集中講義が廃止され，工農地区での独語Ⅲの履習が可能になり，これまで以上に便利になります。

セメスター制については，従来通年２単位であった外国語科目が，前期，後期，それぞれ半期で完結し，半期毎に１単位が認定されることになります。今年度に関しては，学生諸君は前期，後期とも同一クラスで同一教官のもとで教わることになります。トーフル及びトーイックについて言えば，前者が米国やカナダの大学ないしは大学院に留学するのに相応しい英語力があるか否かをみる試験であるのに対して，後者は企業が社員の海外派遣や人事評価の際にどれだけ英語力があるかをみる基準として利用されるものです。本学では，それぞれのスコアに応じて，然るべき英語の単位を学生の申請により認定することになっています。なお，トーフルの試験は毎月，トーイックの試験は年５回実施されていますのでチャレンジしてみてはいかがでしょうか。　（笹倉）

健康・スポーツ科目専門部会

新入生の諸君，入学おめでとう！さあ，新たな青春の１ページを開く時です。さて，悔いのない４年間の大学生活を過ごすためには，なんといっても心身ともに健康であることが絶対条件です。特に，激しい「受験戦争」の戦士だった諸君の体力は，極度に低下していることが，政府の「青年白書」等のデータからもハッキリしています。諸君の入学後の最初の仕事は，運動やスポーツをみんなと一緒にやることです。

茨城大学では，そのためのひとつとして，「健康・スポーツ」の授業を開講しています。１年次の前期か後期に15回，そして２年次にも同様に，計２単位が必修授業として用意されています。その内容は，①大学生活をエンジョイできる程度の体力をめざすコンディショニングコース，②よりハードな競技力を試すトレーニングコース，高校までチョット体育苦手だった君には③トリムコースが設定され，それぞれに，サッカーやテニス等のボールゲームやスキー等のレクリェーションが，また，エアロビック・ジャズダンスやサイ

クリング，ジョギング等の健康づくりが進められています。

高校までと異なること。それは，各種の専門家（コーチ）が，諸君の意欲と自主性を引き出して，スポーツを通したコミュニケーションづくりを展開していること。

さあ，諸君，週に１度は，全力でスポーツ，スポーツ！そして，チームメートとの語らいを！　（岡本）

情報関連科目専門部会

最近，ＩＴ（Information Technology：情報技術）革命という言葉をよく耳にします。皆さんはＩＴの波に乗れていますか？近年，集積回路技術の高度化によって高性能コンピュータの価格が低下し，驚くほどの早さで社会に普及してきました。現在では，コンピュータがあまりにも身近になったため，もはや，コンピュータ無しの社会は考えられない程です。コンピュータの普及は社会のあり方を大きく変えています。特に，通信技術との融合によるインターネットはこれまでの社会の常識を根底から覆すかもしれないといわれています。まさに，情報技術による社会革命です。皆さんが大学を卒業する数年先には，インターネットやワープロばかりでなく，さまざまな情報技術を使いこなせなければならない時代になっていることでしょう。

情報関連科目では，コンピュータの最も基礎的な使い方とそのマナーを勉強します。コンピュータにとってどのような仕事が得意でどのような仕事が苦手なのかまで理解できれば履修の目標は達成です。また，情報技術を専門科目でも履修予定の人は，この講義を経た後に，専門科目でさらに高度な勉強をします。

これからの社会で楽しく生きるためにも，また，時代に取り残されないためにも，情報関連科目は重要です。実習が主ですので，楽しんで学習してください。

（奈良）

人文科目専門部会

すでに終わったことですが，受験勉強はどうでしたか。問題をすぐに解くための公式，長文を読むための英単語など，短時間で膨大な量の暗記を強いられたことでしょう。世界史や日本史の教科書にあったラブレーや紫式部の名前を覚えたものの，ゆっくり読む暇もなかったというのが本当だと思います。文化的な項目に限りません。政治的な事がらでさえ，原因や結果をゆっくり考察してこなかったでしょう。

さて，大学に入った学生諸君は，今こそ人文科学を探求する面白さを味わって下さい。人間，それをとりまいている社会に対して，より多岐的なアプローチをする，ヨコに書かれたものをタテに読みこむ，一つまり，自分の頭で考え，心から納得し，感性を震わせつつ理解していくのです。記憶とは何なのか，荘園制度の中で人はどのようなことを考えていたのか，一体人間はどんな存在なのか……文献を調べる方法を学び，討論し，ビデオで映像を観たり，と様々な方法で知的な興味が刺激されることは間違いありません。広い意味での「教養」は，専門研究を選ぶ意味があることは勿論，感性的な把握と知識とを結びつける点で大切であり，楽しいものなのです。　（杉井）

社会科目専門部会

西暦2000年，今年は言うまでもなく20世紀最後の年である。2000年には二つの言葉がついて回る。一つは，世紀末。この言葉には，なにか退廃的意味が含まれている。もう一つは，ミレニアム（millennium)。欧米で盛んに使われている。次の千年間の始まりを祝おうとする明るい意味が含まれている。イギリスではドームまで作ってしまった。

さて，新入生諸君，君たちは，このような二つの意味で表現される20世紀最後の年に本学に入学した。卒業は，いくら早くても，その時はすでに21世紀であある。21世紀の日本，否，世界を担う諸君に期待されるのは，言い古された感があるが，「Think Globally, Act Locally」の態度である。

社会の分野は，シラバスの英語表記にもあるように「社会科学」（Social Science）を別の言葉で表現したものである。「社会科学は，社会現象を対象として研究する科学の総称」(広辞苑）である。それぞれの専門科目のハードな時間に飛び込む前に，社会の分野の諸先生が説き明かす社会のしくみの探検に参加してみようではないか。　（飯塚）

自然科目専門部会

新入生の皆様，ご入学おめでとうございます。いくら暖冬であったとは言え毎朝起きて出かける暖かい教室があるというのは心よいことだと想像します。

さて“自然系の科目について”いうことなのでが，少し困っています。何故なら，一口に自然系とはいってもその中身は様々で，高校まで理科と数学といわれてきた科目の総称だからです。もう少し詳しく書けば，数学・物理・化学・生物・地学というわけですが，これでは説明になりません。

私自身が数学を専門としているせいか，最近その他の自然系の区別がよくつかないのです。それは私のひどい不勉強だけが原因ではなく，個々の学問の多様化・細分化が進む一方で，逆に最先端においては融合・組み替えがおこり，伝統的な分野による分類の意味がなくなってしまったからだと思います。しばらく前までは，個々の分野で閉じて議論できた問題が，次第に数学の問題でも物理と生物の視点とか，化学と地学とかを同時に視野に入れなければ解決できなくなってきたのです。

我が国ではあまり見られない現象ですが，欧米では複数の自然系分野で活躍している研究者，或いはそこまで行かなくても，複数の理論を自在に操る研究者がたくさんいるような気がします。どうしてそのようなことが可能なのでしょうか？確かに我が国の教育制度が必ずしもそのようになっていなかったこともその一因ですが，わが身をしみじみと省みれば，常に多様な角度からものを眺められる姿勢こそが重要だと思います。2000年を迎え，ギリシャ時代の哲学者やルネッサンス期の哲人を懐かしみ，ここはぜひ様々な自然系の科目の授業・演習・実験に参加して多様な見方を身に付けてみてはいかがでしょうか？

何かを始めるのにもう手遅れということはないようです。

（堀内）

総合科目専門部会

教養科目はいくつかのグループに分かれています。総合科目はその中の一つで，国語，数学，英語というような特定の教科に分類するのが難しいような科目が集められています。もう少し詳しく言うと，環境問題などのようなさまざまな分野に関わりのあるテーマを扱ったもの，最近社会で注目されている題材を扱ったものなど，総合性や学際性の高い内容のものが集められています。全体として，総合的な判断力や広い視野を養うことを目指しています。

このような特長を十分出すため，総合科目では一つの科目を複数の教員で担当したり，多くの学外講師を迎えたりする科目を数多く用意しています。このことは他の科目にはない総合科目の特長の一つです。このように総合科目は内容的にも授業形態としても非常に多様ですので，総合科目の授業案内（シラバス）には特に注意を払ってほしいと思います。

また，今年度から，各総合科目のシラバスや担当者の諸情報を，学内ＬＡＮやインターネットなどから引き出せるようにする予定です。さらに，教養教育係の中にも端末機を置いて，学生の皆さんが自由に使えるようにする予定です。授業科目の選択にぜひ活用してほしいと思います。これは新しい試みで，より使いやすいものに整備している途中でもありますので，使ってみて意見などがあれば教養教育係にお伝えください。

（曽我）

キャンパス情報

人文学部から

新入生の皆さん

入学おめでとうございます。

人文学部は，人文学科，社会科学科，コミュニケーション学科，により構成されています。

人文学科の特色は，人間科学，歴史・思想，日本・中国文化，欧米文化，といった人間と文化に関する学問を少人数教育として学ぶことにあります。

社会科学科の特色は，経済学，法律・政治学，経営学，社会学，といった社会にかかわる学問を少人数教育として学ぶことにあります。

コミュニケーション学科の特色は，言語情報，言語コミュニケーション，コミュニケーション動態，メディア環境，といった文化の基礎となるコミュニケーション行為の構成と機能に関する学問を少人数教育として学ぶことにあります。

専門科目の修得は2年次からですので，その修得に全力を注入できるよう，1年次では教養科目を定められた通りに完全に履修することが望まれます。大学生活に頓挫する原因の殆どは，これが履修できないことにあります。その意味では，1年次のあり方が大学での学問・研究のその後を決定するといえます。頑張って下さい。

（梅田）

教育学部から

新入生のみなさん，入学おめでとうございます。

茨城大学教育学部は，基本的には小学校，中学校，高校，養護学校などの，高度の専門的知識と幅広い視野を持った教員を養成しようとする学部ですが，それだけではありません。情報文化課程は，情報化が私たちの社会や文化，生活にどのような影響を与えるのかを，立体的・多角的に究明するとともに，新たな情報文化を創造し，になえる人材の育成を目的としています。また，人間環境教育課程は，さまざまな今日的課題に対処するために，各分野の専門的知識を持つとともに，「専門家と一般の人々をつなぐ働き」も十分に果たすことのできる人材の養成を目指しています。

私たちの学部は，人文社会科学を専門とする教員と自然科学を専門とする教員が120人ぐらいいて幅広く学ぶことができますし，1年生のときから選修（たとえば理科選修，英語選修など）と呼ばれる比較的小人数の単位からなるクラスメートと一緒に行動することが多く親密な交流ができる所です。

また私たちの学部には，研究面でも教育面でも優れた先生が大勢おります。国内だけでなく国際的に活躍されている先生も多いのです。どなたがそのような先生かはここには書きません。それはこれから皆さん自身が見つけ出す楽しみを奪ってしまうことになるでしょうから。大学生活が有意義なものになるかどうかは，自分自身が本当にやりたいことを見出せるかどうか，今後も付き合っていける友達を得られるかどうか，見聞を広めいろいろな経験をすることができるかどうか，というようなことに加えて，そのような（人間的にも）優れた先生を見出し親しく「付き合う」ことができるかどうか，に大きく依っていると思います。ぜひそのような先生を見つけだして下さい。Good　luck！

（竝木）

理学部から　―――学ぶ楽しみ―――

新入生の皆さん入学おめでとうございます。特に理学部を選んで入学してきた皆さんには，自然科学の洋々たる学問の海が待っています。その中で自然科学を学ぶ面白さを十分に満喫していただきたい。しかし，最近の自然科学は急速に発展したり，総合化されたりして複雑になっています。やはり，基礎学力がないと楽しみも半減してしまいます。特に1，2年生では専門基礎科目をしっかり勉強して，幅広い基礎学力を身に付け専攻科目の勉強に備えてください。

そして教養科目も疎かにしてはいけません。語学や

情報処理はこれからは必須です。分野別科目や総合科目の中には卒業しても忘れられない科目や，いろいろな場所で役にたつ科目がきっとあります。専門以外のことを多く知っていると人生もバラ色になります。特に1，2年生では幅広い分野の学問の壁にどんどんぶつかって楽しんでください。

専門も教養の講義もただ聞いているだけではつまらないです。わからないところやもっと深く聞きたいところはいつでも積極的に教官に質問してください。時には研究室に押しかけて行くのもよいでしょう。時間さえ空いていればきっとやさしく答えてくれるはずです。大学の勉強はただ与えられるものを待つのではなく，自ら積極的に求めていく姿勢が必要です。学ぶ楽しみも人それぞれに違いがありますが，自分流の楽しみ方を見つけて大学生活を充実したものにしてください。

（三輪）

工学部から

「超整理法」（野口悠紀夫著，中公新書）という本が以前ベストセラーになったことがあります。読まれた方も多いかと思います。誰もがきちんと整理できていたら探し物で時間を掛けたり，慌てずにすんだのにと後悔した経験をお持ちでしょう。これは古くからの人類のテーマであり，過去いろいろな整理術の本が出版されています。だいたいどの本も，整理＝分類，という発想で書かれています。しかしこの本は，整理は何のためにするのかという原点に帰って考え，後で取り出す＝検索，がポイントだと気付き，ファイル押し出し法という，コストのかからない，今流に言えば人間にやさしい方法をあみだし，提唱しています。整理するという考えを「超」えた発想の転換があります。

いま我々の行動は一流指向です。一流大学へ行き，一流会社に就職すること，他の人より豊かな一流の生活をおくる。決して悪いことではないでしょう。しかしその前に考えるべきことがあります。自分はどうなりたいのか。どんな人生を目指そうとするのか。人との競争で勝ち一流になることではなく，自分にふさわしい，努力する価値のあることがいろいろ見えてくることと思います。

私はいま「超一流の講義」を目指して頑張っています。厳しいけど受講してみてよかった，知識だけではなく，考え方を学んだ，人生が啓けたとみなさんが思うような講義を目指しています。工学部には私のように思い，すでに実践し成果を挙げておられる先生方も多数おられます。ただ「超一流の講義」は教師だけの努力だけでできるのではなく，学生の皆さんの心意気と我々の創意工夫がマッチして初めて実現します。工学部における学園生活を通し，皆さんが一流，二流を超越した高い考え方を身に付け，自分の能力を最も活用する「超一流の人生」を築くためのワンステップを踏み出すのを応援します。

（鹿子嶋）

農学部から

農学部はこの4月から改組して3学科編成になりました。生物生産科学科，資源生物科学科，地域環境科学科の3つです。今までは生物生産学科と資源生物科学科の2学科で，1つの学科の中にいくつかの異なった専門分野がありましたが，こんど地域環境科学に関する分野が独立して少しすっきりした形になりました。

新入生は入学時に3学科に分かれるので，そのことを2～3年次生よりよく知っています。2～4年次生は2学科編成のまま進行するので，3学科になったことの直接の影響はありません。ただし，留年すると面倒な事にならないとも限りませんので，特に2年次生は必修の単位をできるだけおとさないように心掛けて欲しいと思います。

農学部キャンパスでは，この4月から新築の福利厚生施設がオープンします。今年の2月までに，キャンパスの片隅にぽつんと取り残された古い建物の中の食堂と売店を利用してきた3年次生以上の学生と職員にとって，このことは特に感慨深いものです。教室棟に近くて新しい福利厚生施設を利用できる今年の農学部生は（職員も）幸せです。

この新しい福利厚生施設の南側に，これから研究室管理の温室などいろいろな実験圃場や施設が整備される予定です。

4月には弓道場も改築されて使えるようになります。テニスコートがいま使えない状態なので，できるだけ早く整備して下さるように関係者の方々にお願いいたします。

（軽部）

教養教育一口アドバイス　－ 教養科目でこれやっちゃダメよ －

松田　哲（人文学部３年）

新１年生の皆さん，御入学おめでとうございます。なんてセリフは聞き飽きていると思うので，さっそく１年次の教養科目履修について，私の失敗・反省からのアドバイスに入りたいと思います。

一口に教養科目といってもその内容は多岐にわたり，全部で38単位あります。これらの単位は１，２年のうちに取っておくべきです。１年生は履修する際に分かるのですが，１つの授業にあまり多くの生徒が集まると，定員に合わせて何らかの方法で生徒を切り捨てることがよくあります。この時最初に切り捨てられるのが２，３年生で，このまま教養の科目を４年まで持ち越してしまうことも多いです。２年からは専門科目の授業が入ってくるし，４年生は卒論や就職活動で忙しいので，ヒマなうちに終わらせてしまいましょう。

また，教養科目の中でも分野別科目について一言。私だけではないと思いますが，一般に文系は理数系教科が苦手です。なのに自然の分野で物理や数学の授業をとってしまい，大学で初めて微積を勉強したあげく，単位を落としてしまう人がたまにいます。理系の人も法学や経済はよく考えてから選んで下さい。

そして全ての授業にいえる事ですが，出席をとる授業では基本的に欠席は３回までです。４回休んだらアウトです。私は３回までは休んでもいいんだと解釈していましたが，３回休んだ後に風邪をひいたりして困った事になるので，なるべく出席した方がいいです。評価にも反映しますので。授業をとる際には，時間帯にも注意して下さい。１限の始まる時刻は８時50分です。この時間は高校までと大差ありませんが，大学生にとってはつらいものです。特に１年の初めはサークルなどのコンパが多く，一人暮らしの人は開放感から徹夜が多くなるので，朝早く学校に行くのがきつくなります。特に冬期はフトンから出るのもいやでしょう。

最後に一番大切なのは，〝情報〟を集めることです。どの先生の，どんな授業であれば，単位が楽に取れるのか。それとも半数以上の人が落とされるのか。出席重視なのか，テストか，レポートか。中にはテストの問題が毎年変わらない先生もいるので，前年の問題を調達できればぐっと楽になります。以上の情報の発信源となるのは各種サークルであり，そこにいる先輩や同級生です。彼らから情報を得ることで，単位に縛られないスムーズなキャンパスライフを送り，４年間で卒業して下さい。ではサヨウナラ。

川口　　亘（教育学部３年）

新入生の皆さん。ご入学おめでとうございます。教養教育についてのワンポイントアドバイスを書いてもらいたい，とのことでこの原稿をかくこととなりました。僕自身の言うことがどれほどの参考になるかは分からないけど，こんなもんなのか～という感じで読んでもらえると良いです。

教養の授業と言っても，それほどはたいへんなものではないです。学部とかによって違いはあるのでしょうが，外国語，体育，コース別の授業，分野別といって人文，自然，社会のなかから選択していくものが主なものです。申告票をきちんと出して，授業に出ていれば，よほどのことがない限り単位をもらえないということはないと思っていいです。だからといってさぼってばかりいたり，テストがあることを聞いていないとかいう言い訳は通用しませんから，そのあたりは気が抜けませんね。実際たまたまさぼった日にレポートとかテストの説明があって，それで単位をとれなかったという人はいますからね。

授業を選んで自分の関心のあるものを受講していくというのは，たぶんほとんど皆さんにとって，初めてのことだと思います。ここで重要なのは少しでも興味が持てそうだと思ったら，最初のガイダンスに出てみることをお勧めします。「後期で面白そうな授業があるから今は遊んでおこう」と考えているとその授業が定員一杯で受講できなくなってしまうということもあります。そうなると関心の持てない授業を受講しないといけなくなってしまうということになってしまいま

す。だから興味がもてそうだと思ったら，ガイダンスだけでも受けておくとけっこう面白かったりして良いですよ。

外国語の授業は入学してすぐに，アンケートがあると思いますが，受講のしかたにもよりますが，１年生もしくは２年生で終わらせることができるでしょう。英語をさらに続けるということもできるし，新しい言葉を勉強するということもできます。外国語はやはり続けることが大事ですから，授業に出ていれば，テストもそれほどは大変なことではないでしょう。ただ，あまりさぼってたり気を抜いていると，それなりのことにしかならないってのはあるから，外国語はそれほど気が抜けないというのもあります。

体育は授業によって違うというのもあるのでしょうけど，ほとんどが出席重視ですから，はりきって出席しましょう。大学だと運動部に入ったりサークルでもしないと体を動かすこともないですからたまには運動もいいでしょう。

これからの大学生活気を抜きすぎないように楽しんで，充実したものとしてください。

中三川　真也（工学部３年）

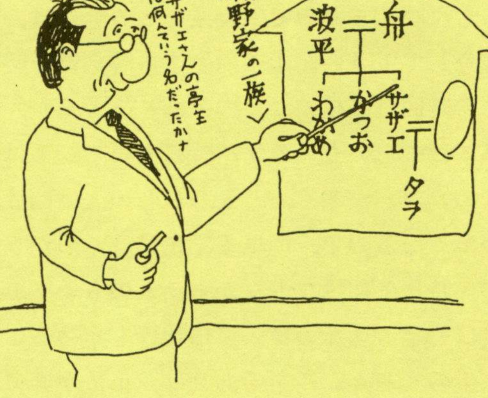
教養科目でこれだけはやっちゃダメというのは自分の経験，または友達の経験からいっていくつかあります。工学部，農学部の人は心して読んで下さい。

１年生の授業のほとんどはこの一般教養で埋まっていると言って過言でないと思います。さてさて，自分が卒業までに必要な一般教養の単位というものを知っていますか？自分が工学部なもので工学部を一例にあげると，人文，社会，自然，総合科目の各々を４単位ずつ取得しなければならないのです。“なんだ４年間で16単位取りゃいいんじゃん”なーんて思った方，かなり危険です。工学部生は２年次から日立へ，農学部は２年次から阿見へと移らなくてはならないのです。実は日立，阿見にはほとんど一般教養の授業カリキュラムがないのです。それだけではなく，２年になると専門科目と選択科目，実験などが入ってくるので一般教養を取る時間なんて無いに等しいのです。いや，自分はこれだけでいっぱいいっぱいでした。だから，もし，１年の時に必要な単位を取り損なうと……もうみなさんなら理解したでしょう。とにかくかなり危険だよ。まぁ集中講義なんていうのも例外としてはあるけど，おすすめはできないなぁ。

そういえば，もっと危険なものがありました。それはというと，身体活動です。１年間に１回しか履修できないにもかかわらず，２年間で４単位，つまり１回たりとも落とすわけにはいかないわけです。

最後に，卒業に必要な単位をすべて取り終えた時のことについて書こうと思います。私が失敗したのは，調子にのって，多くの単位を取ろうとして，興味のまったくない授業を履修してしまい，あげくのはてには良くない結果が出てしまったことです。やっぱり，中途半端な気持ちで履修してもあまり良い結果には結びつかないですよネ。今さら思うことだけれども，もっと真面目にやっておけばよかったなんて思っています。それが何個かあることに気づいた時には，取らなければよかったなんて事まで考えてしまう自分がいるんだよね。これを読んでいる君達は，くれぐれも私と同じ誤ちをしないようにして下さい。

新入生のみなさん，何事にも言える事ですが，自分が興味のある事には，多少何かを犠牲にしようとも，それをやってみようとする気持ちを大切にして下さい。過ぎてしまった時間はとり戻すことは出来ません。自分の未来を見つめながら生活することが，何よりも大切な事であると私は思います。頑張って下さい。



Voice　－ 私の出合ったステキな授業，へんな授業 －

私と芸術の出会い

于　　暁白（人文学部２年）

芸術とは，人間の最も人間らしい面を示すものであり，今日，世界のいかなる片隅においても，人間のいる限りは，そこには何らかの芸術がある。大学生として，芸術の鑑賞能力が不可欠だと思う。いくつかでも知的に芸術のあり方を把握し，その広大な世界を素直に享受していこうと考えるならば，そのために必要な「勉強」の方法を身につけたいと考える。このために私は「文化の創造と水戸芸術館」この授業を受けた。

この授業の担当教官は，教育学部の曽我日出夫先生と水戸芸術館の各芸術分野部門の専門家，授業の内容は，日本の文化施設と水戸芸術館の概要から，音楽の楽しみ方や現代美術の楽しみ方など，芸術の幅広い範囲でいろいろな知識を紹介され，そして，芸術を楽しむために必要な知識の種類とその学び方，芸術を奥深く鑑賞するための方法などを教えた。

この授業を受けて私は芸術鑑賞能力を高めことができ，これからの人生をより豊かに送ることができると思う。是非，この授業を他の学生にも推薦したいと思う。

飛田　千恵子（教育学部２年）

大学生活も早いもので２年目に突入しました。どんなサークルに入ろうか，どんな生活を送っていこうかとあれこれ悩んでいた１年前の自分の姿を昨日のことのように思い出します。

そのような中で新しい授業も始まったのですが，１年生の時間割はほとんどが教養科目でした。自分が学んでいきたい専門分野とは関係のなさそうな授業もとらなくてはならないので面倒だと思うかも知れませんが，自分の視野，興味を広げてくれるものと考えて，講義を聞くべきだと思います。それに，結構面白い授業もあるものです。私は心理学の授業を前期にとったのですが，授業の中で真理テストをしたり，自分の性格を分析したりと，大変楽しく講義を受けることができました。また，哲学の授業では，あるテーマについて，みんなの意見を一人一人聞いていく，という形式もあり，多くの考え方を吸収することもできました。教養科目は講義，レポート，発表等を通して，自分のこれまでの考えにさらに深みを持たせることができます。先輩の話を聞いたり，シラバスをよく読んだりして，教養科目を履修し，自分をさらに賢い人間へと育てて下さい。

小島　尚子（理学部２年）

私は大学に入ってとてもステキな授業を受けることができました。それは英語Ⅱのミーコック・アン・テレーズ先生の授業です。今まで英会話教室などに通ったことがなかった私にとって，外国人の先生と直接話す機会がほとんどありませんでした。先生は十年以上日本に住んでいて日本語を話せるし，理解できるのですが，日本語で発表すると「English.／」と飛んできます。でも全然怖がる必要はありません。ジェスチャーや日本語の単語をぽろぽろ言うと，ちゃんと英語を教えてくれます。一番始めの授業で，「一人を指名して答えを出すまで立たせることはしない。指されることに緊張していたら授業がつまらなくなるから。」と言ってくれました。私達は気軽に，長期休暇中に起きた事を先生に英語で伝えることができたし，聞かれて分からなければ「I don't know」と言えばいいので英語を身近なものとして感じることができました。授業で先生が特に力を入れていたのが，３～４人のグループに分けて英語で劇を作ることです。先生から題を与えられることもありますが，自分達で話を作り英訳するのはなかなか大変です。先生に見せると適切な表現を教えてくれます。初めは恥ずかしかったけれど，だんだんと英語で表現していくことの楽しさを実感しました。先生のおかげで１年間楽しく学べました。

森　千里（工学部２年）

「法と経済」での話でした。“なんで払ったんだ！取り返してきてやる!!”と，書店の駐車場に駐車していて１万円取られた学生に対応し，店長に直談判して１万円を取り返したことがあったそうです。『違反駐車１万円』などというものは法的に根拠がないので，払う必要はないと説明していました。受講する前は「刑法，民法の解釈」などをやるのだろうと予想していましたが，講義全体が“敷金の取り戻し方・礼金を払う義務の有無”や“ＮＨＫの受信料を払う義務”などの学生からの身近な法律関連の質問に答える形式になっていて，かなり実践的な内容でした。「大学の授業」は教授が話すのを聞いているだけというイメージがあり，たいていそうでしたが，これはただ聞いているだけではない講義であり，面白く集中できるものでした。今まで疑問に思っていてもどう解決してよいか分からずに解決を放棄したことが数多くありましたが，そのいくらかが解決できたように思います。生活に役立つ内容であり，学生が参加しやすい講義なのでステキだなと思いつつも，ちょっとヘンな講義だったかもしれないとも思いました。

斉藤　美有紀（農学部２年）

前期，後期ともに私は結構ステキな授業，ヘンな授業に出会いました。高校までの暗記ばかりの授業とは違い，考えさせられる授業が多く，私にとって教養科目の授業は楽しいものでした。

ちょっと違った発想から生物学を教えてくれた「生命のしくみと働き」では，毎回小テストがあるのですが，なんだかクイズのようでユニークなのです。例えば「キングコングはどこがおかしいか」とか。生物学的にサイズの面からどうもスマートすぎるらしいのです。そんなこと考えたことありますか？

ちょっと変わった講義内容にひかれて取った「明快な話し方の方法論」では，私はただその方法論を講義してくれるのだと思っていたのですが，なんと実際に生徒も立って発声練習したり，今までの受け身の授業と違い，双方向の授業に少しとどまってしまいました。今まで明快な話し方をしようなんて思ったことありますか？ソの音の高さで話し始めるといいそうで，そんなこと意識しながら今日も話してみたり。

受験勉強で固くなった頭を柔らかくしてくれたちょっとステキなちょっとヘンな授業でした。

教養教育古今東西　－よその国の大学を紹介します－

我々の講座に在籍中の中国からの留学生に，中国の大学事情について聞いたことを紹介します。

日本と違い，中国では全国共通の大学入試があり，その成績によって大学を選ぶというシステムです。彼の大学は武漢測絵学院（現在は武漢測絵科技大学）と言い，測量と地図作成の専門家の養成を目的とする大学です。このように測地学を専門とする大学は世界的に見ても珍しい（唯一？）と思います。ここの授業科目は基礎と専門に分かれており，彼が在学した1980年代頃は全科目必修でしたが，現在は若干の選択科目も存在します。基礎科目が教養科目に相当すると思われますが，日本の大学の教養科目とはだいぶ趣が異なります。まず，その大半が専門科目に直結する理系科目で，電子工学のように日本では専門科目に分類されるものも含まれます。数少ない文系科目には政治・経済・哲学などがあります。また大半は１～２年次に集中するものの，数学や英語（専門分野の英語）などの一部の基礎科目が３～４年次でも開講されます。基礎科目も専門科目も数がかなり多く，またそのレベルも高いので，学生達は日本（茨大？）の大学生よりも一生懸命勉強するそうです。一般に，中国の大学生は日本の大学生より高度な専門的知識を習得する反面，知識の幅という点では日本の学生の方が概して優っているとのことです。両国は教養教育の理念が根本から違うようです（もっとも，近年は中国でも幅広い教養を身につけさせる方向に変化しているそうです）。

彼の在学中は物価も学費も非常に安く，ほとんどの学生はアルバイトをせず学業に専念したそうです。また当時は大学も少なく，大学卒，即ちエリートということで，就職は引く手あまただったとのことです。し

かしその後の中国の経済発展に伴い，状況は一変しました。物価が高騰し，アルバイトをする学生も次第に増えてきました。また大学も大学生人口も増えた結果，就職難が生じ，大学院進学率の増加につながっているようです。ここらへんは日本と事情が似ているように思います。日本同様，中国の大学も曲がり角にさしかかっているのかもしれません。

河原　純（理学部）

掲 示 板 コ ー ナ ー

奨 学 金 制 度

「奨学金についての問い合わせは，学生部厚生課へ」
２２８－８０５９

奨学金制度として，1）日本育英会，2）地方公共団体・民間団体の奨学金制度がありますが，いずれも人物・学業とも優秀で経済的理由により，学資の支弁が困難と認められる者に貸与されるものです。

1）日本育英会

【奨学金の種類及び貸与月額】

第一種奨学金　無利子貸与

きぼう21プラン奨学金　有利子（３％）貸与

併用貸与　第一種奨学金の貸与を受けても経済的に著しい困難があると認められる者については，きぼう21プラン奨学金を併せて受けることができます。

(注)大学院博士後期課程は，第一種奨学金のみです。

区分 ＼ 入学年度			平成９～10年度	平成11年度～
学部専攻科	第一種	自宅通学	40,000	41,000
		自宅外通学	46,000	47,000
	第二種	自宅通学	40,000	3,5,8,10万円から選択
		自宅外通学	46,000	
大学院	第一種	修士・博士前期	83,000	84,000
		博士後期	115,000	117,000
	第二種	修士・博士前期	83,000	5,8,10,13万円から選択

【出願資格】

第一種奨学生……人物・学業とも特に優れ，経済的理由により著しく修学困難な者

きぼう21プラン奨学生………人物・学業とも優れ、経済的理由により修学困難な者

【出願方法】

１年次（１次募集）
２年次以上　掲示を見てください。
大学院生
専攻科生…………入学手続きの際，お知らせします。
１年次（２次募集）………
7月中旬頃，掲示によりお知らせします。

※　主たる家計支持者の失職，死亡又は災害等による家計急変のため，緊急に奨学金の貸与が必要になった場合は，随時出願できます。

【適格認定】

奨学生としての人物・健康・学業成績・経済状況を総合的に考慮し，その資格を有するか否かを認定するものです。

適格認定のために，「継続願」，「貸与額通知書」を10月上旬に配布し，「継続願」に経済状況・学生生活の状況・学修の状況を記入し11月中旬に提出し，それに基づいて適格を認定します。その結果，警告・停止・廃止の処置をとります。ただし，平成11年度以前の第一種奨学生，平成10年度以前の第二種奨学生については，従来どおり年２回奨学金受領資格認定はします。時期等については掲示によりお知らせします。

【在 学 届】

次に，該当する者は，速やかに在学届を提出して

ください。在学届を提出することにより，本学在学中は，奨学金の返還が猶予されます。

・高等学校で日本育英会の奨学生であった者

・貸与終了者で，大学又は大学院に留年している者

【進 学 届】

高等学校在学中に，平成12年度大学第一種及びきぼう21プラン奨学生採用候補者に決定されている者は，４月18日(火)までに進学届を提出してください。

進学届を提出した者は，在学届を提出する必要はありません。

2) 地方公共団体等

本学に募集の案内があったものについては，その都度掲示によりお知らせします。

本学に募集要項を送付してくる団体はごく一部です。希望する学生は，各自，奨学関係団体（県の教育委員会など）に直接照会してください。

＜平成11年度本学へ募集案内のあった団体＞

茨城県，岐阜県，岡山県，石川県，富山県，福島県，鹿嶋市，㈶宮崎県育英会，㈶川口育英会，㈶電通育英会，㈶大阪府育英会，㈶中村積善会，㈶山口県育英会

つ ぶ や き

新年度がスタートしたこの時期，キャンパスの中は新入生を迎えて華やいだあわただしさがただよっています。大学教員30年の私も新鮮な気持で日を送っています。

新入生の諸君は，大学の内や外で毎日「入学おめでとう」「よかったね」「これから４年間がんばってね」という言葉に囲まれているのでしょうね。だけど新入生諸君のすべてが「めでたい」「やったぜ」「頑張るぞ」と思っているわけではないですよね。第一志望の大学や学科でなかったという不満足や挫折感を持ちながら，今新しい生活を始めている諸君も少なくないですよね。

そして，「希望と意欲に溢れて今ここに居るわけではない」という中途半端な気持や居所のなさというのは，新学年度のふんいきの中ではかなり辛いですよね。しかも，このような悩みや辛さをやり過ごしたり，そこから逃げたりしてはいけないぞ，とも思っていますよね。私もかつてこのような経験があるので，他人ごとではなく思い出します。

「こうしたらいい」といった万能の処方箋はないので，このような悩みや辛さと誠実につきあっていく中で，結着をつけていかなければならないと思います。経験的に言えるアドバイスの一つは，気心の合う信頼できる友達をいち早く見つけることはかなり有効な手だてなのではないだろうかということです。これまでたくさんの不本意入学の諸君に出会ってきたけれども，周囲に何人かの親友を持つことのできた諸君はほぼまちがいなく，４年後には「この大学での４年間は充実していた」と言って卒業しています。

この「ローザ・プルムラ」はこのように悩みを抱えた諸君からの意見を待っています。教養教育についてあるいは大学教育全般について不満や疑問さらには憤りを感じたときには，その声を編集部（共通教育棟１Ｆ，学生課教養教育係）に伝えて下さい。学生諸君のさまざまな声を交換させたいと思っています。

(Ebahiro)

発行日　平成12年４月

発行者　茨城大学　大学教育研究開発センター

水戸市文京2-1-1

029(228)8416(学生課教養教育係)